

貴族院議員正三位勳一等
前司法大臣米國大博士 男爵金子堅太郎君題辭
貴族院議員從三位
勳二等東京府知事 男爵千家尊福君題辭
島根縣隱岐島司正七位 東文 輔君題辭
 白田蒼生比古君題辭
 小泉憲貞編輯

隱

岐

誌

一名踏查見聞錄

前編
後編

合本

○第四十九綴

竹島渡海ノ起點地頭末

竹島(今ノ韓國領鬱陵島ノコト)ハ渡海ノ發點地ハ隱岐國穩地郡北方村福浦港「明治ノ鬱陵島」ハ發點地ハ知夫郡宇賀村宇井港ナリニテ既ニ寛永年中竹島渡海業者カ寄進シタル彼ノ地ヨリ持歸リシ良材ヲ以テ福浦港灣中ノ一小島ニ祠ヲ建立シタリ今ニ祠存在ス○竹島渡海ノ準備整ヒ出帆ス以下看略山陰道ノ海濱漁夫船夫ノ該島ハ漂流セシ人ハ一々枚擧スルニ違アラズト雖モ其著シキハ伯州米子ノ大谷甚吉元和三年(西曆一六一七年)越後ヨリ歸船ノ途次風雨ニ會フテ漂蕩シ辛フシテ無人ノ一島ヘ流着シ得タリキ是レ實ニ朝鮮領竹島ナリ甚吉ノ竹島ニ漂着半ハ破損セル舟楫ノ修繕ニ着手スルヤ傍ラ該島ノ形勢ヲ觀察シ再ヒ渡來シテ事業ヲ起スノ目的ナリキ(豊公征韓ノ終役後テ去ル十九年ニ過キサル元和三年ナリ)無事歸國シテ而シテ後キ米子ノ村川市兵衛ニ竹島渡海ノ事業計畫ヲ協議シタリ幕府ノ許可ナクシテハ國法上擅マ、ニ之レニ渡海スヘキニ非サリシ彼等之レカ爲メニ苦慮セリ然ル處幕府ノ旗下安倍四郎五郎ハ檢使トシテ伯州ニ入レリ彼等ハ直チニ安倍ニ就テ竹島渡海免狀ヲ得ルニ斡旋セラレンコトヲ求メタリキ安倍ハ快諾シテ歸東セリ翌元和四年ニ及ンテ大谷村川相伴フテ江戸ニ上ホリキ是レ實ニ竹島渡海免狀ヲ得ルニ及ヒタルノ階梯ナリキ村川市兵衛カ大谷甚吉ノ發見事業ヲ援ケテ共同運動キ當リシハ竹島渡海ノ計畫ヲ成功セシムルノ大動力タリシナリ大谷村川ハ元和四年(西曆一六一八年)ニ於テ既ニ相伴ヒテ江戸ニ上ホリキ安倍四郎五郎ハ日夜其間ニ奔走シ渡海免狀ノ下付ヲ求ムルニ努メタリキ安倍ノ盡力ハ空シカラサリキ五月十六日ニ至リテ渡海免狀ハ藩廳ニ下附セラレタリ曰ク

從伯耆國米子、竹島へ舶相渡之由、然者如其今度渡海之儀、村川市兵衛、大谷甚吉申上、付而達 上聞候之處、不可有異儀之旨被仰出候間、被得其趣、渡海之儀可被仰付候 恐々謹言

五月十六日

- 永井信濃守尙政 判
- 井上主計頭正就 判
- 土井大炊頭利勝 判
- 酒井雅樂頭忠世 判

松平新太郎殿

竹島ハ朝鮮國江原道ニ屬スルノ一小島ニシテ松島ノ西ニ峙テリ周圍十里許リ朝鮮本土チ距ルコト約四十里我隱岐國チ距ルコト一百里餘ノ間ニ立テリ(舊來ノ測量ナリ)而シテ松島ニ至ルノ距離モ亦々四十里許リト稱セラレ竹島ハ全然朝鮮領ニシテ我レヨリハ遠遠ノ地ニ屬セルナリ此竹島ハ何ニ由テ發見サレシカ是實ニ大谷甚吉ナル一船夫カ風雨ノ難テフ偶然ノ機會ニ伴ハレテ漂着シタリシヨリ發見シ得タル者ナリキ潮流ナル關係ト風雨ナル事故トハ古來山陰道地方ノ船舶ノ漂流モ亦々其例尠カラサリキ寛永九年閏八月五日ニハ四十一人乗ナル明ノ商船カ因州加露浦ニ漂着セシコトナリキ萬治二年八月二十七日ニハ伯州汗入郡西坪村ノ海岸ニ異形ノ破船漂着シテ幕府ニ急報シタルコトアリキ享保二年六月ニハ唐船漂流ノ休雲州美保關岬ニ見ヘシト記録ニ見ヘタリ竹島占領ハ前後八十年ナリシト云フ占領中伯州ノ船舶カ寛永年間ニハ齋山ニ寛文年間ニハ釜山ニ漂着シテ彼レヨリ因幡鳥取藩ニ向テ送致シ來リシノ事實アリキ彼レノ漂着シ來リシ船舶ハ石、雲、伯、因、但、等最モ漂着多キハ隱岐國ナレト之レヲ一々枚擧スルニ違アラズ

部を机の傍らに撥び云く今日も又例の梅漬が菜なりとて氣の毒とや
 思けん予が顔を窺見て頭垂たり予笑て云く凡そ志士其目的を貫徹す
 るに勉むる時は何ぞ危業を厭はんや聞けよ天下の英雄と予とは素よ
 り壤の差ありと雖も艱難辛苦を極むると云ふ點に至ては一なり如何
 に天授の才能ある人間たも勉めずして英雄になることは出来ぬであ
 る三尺の童子も知る如く豊臣太閤は天晴れの豪傑であるか其太閤か
 生れなからにして豪傑と云ふのではなく賤しき家より身を起し辛苦
 艱難を事ともせず晝夜心の限りを盡し如何なる六ヶ敷事柄に出合て
 も屈せず撓まず遣り通ふしたではないか其時代には諸方の豪傑も立
 并んで居たか夫等の人々は申に及ばず前後になき誰も及ばぬ勉強し
 て智識を研ぎ揚たる故其時の諸大將方の中にも及ぶものゝなき豪傑
 のなりたのであり亦既に汝が云ふ如く梅漬の菜とは予に取りては誠
 に日出度後日の吉兆必ずや好結果を見る基礎である例証一々枚舉す
 るに遑あらずと雖も豊臣徳川前田其他の諸豪傑戰場に在て各盛相飯
 を食する時は必ず先づ梅漬が第一の菜なり功成り名遂るの日其馳處
 快樂何物か之に如んや阿々
 爰に一吟をものす

梅漬や百萬斛の稻の基礎

開普小泉憲貞君有力於隱岐誌編輯尋之浪速賦一律以贈

鱈 江 弘 毅 蛙

一去關山奈此情從來素志唯期成
 十年辛苦百年樂萬里天涯浪速城

隱岐誌後編 (終)

明治三十六年九月廿一日印刷
 明治三十六年九月廿五日發行

壹冊定價金六拾錢

不許複製

編輯 鳥取縣伯耆國西伯郡境町六百八拾五番邸平民 小泉 憲 貞
 發行 大阪市南區末吉橋通四丁目十六番地 井下 幸三 郎
 印刷 大阪市中心齋橋北詰壹丁目、辻 浩進 舍活版所
 印刷 伯耆國西伯郡境町 私立境圖書館
 發賣 大阪市南區心齋橋北詰 駿々 堂
 賣 高根縣松江市天神町百十番地 書肆 川 岡 清 助
 同 鳥取縣鳥取市 旭日堂 書房
 同 伯耆國西伯郡米子町後藤停車場ノ脇 村田 百三
 同 同 國 郡 境 町 足 立 久 吉
 同 隱岐國知夫郡浦郷港 里 見 要 治 郎
 同 瀛船隱岐丸船内ニ於テ 山 浦 菊 太 郎
 同 瀛船第二隱岐丸船内ニ於テ 渡 邊 久 治 郎

九十五